

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年6月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2891500064		
法人名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団		
事業所名	グループホームひろいしの里		
所在地	洲本市五色町広石上113 (電話) 0799-35-1201		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年6月22日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算	14.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	19,800 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	五色診療所・鮎原診療所・高田医院・新淡路病院・箱木歯科医院
---------	-------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かで静かな環境と広い敷地や生活空間が、豊かな生活の基盤となり、利用者の方々にとっては穏やかに生活ができるホームである。事業所理念のもとに、職員は利用者の役割や生活パターンを認め、自主性を引き出す関わりに重点が置かれている。生活活動は、ほとんど利用者と職員が話し合っ決めてられており、食事の仕度などは協同作業であるが、日課に捉われることなく各々の生活パターンで過ごされている。新しい事業所であるが、地域に溶け込むための取り組みや日々の利用者の地域参加に対する支援も行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	今回が初めての第三者評価の受審である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	毎日5項目のチェックを行い、職員一丸となって自己評価に取り組みられたことから意識の高さが窺える。リーダー職の方々を含め、外部の評価結果に対する職員の意識が高く感じられ、今後の事業所運営に活用しようとする姿勢が窺えた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議では、日々の暮らしの出来事を取り上げて共有するとともに、地域や利用者の意見を聴き、理念に基づき丁寧に対応している。夜間や離設の問題も管理的になりがちであるが、本人や家族の思いを受け止めた個別の対応に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	広報誌「ひろいしの里だより」と共に、個々の生活状況についても担当者が書面で毎月送付している。写真からは、暮らしぶりや活動が分かり、健康面、金銭面と明確な伝達項目と内容が充実していることもあり、家族の安心に結びついている。家族との日々のコミュニケーションを心がけているため、要望を把握した時点ですぐに職員間で話し合いが持たれ、反映できる連携と体制がある。そのため、大きな苦情もなく対応できている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	日々の生活が、事業所から買い物、散歩と屋外での日課が定着しているため、暮らしの中の挨拶から交流が徐々に根付いている様子が見受けられる。「いつでもだれでもどうぞ」の精神で、開設時から内覧会やケーブルTVでの広報など、事業所の開放と隣保活動なども含めて地域に溶け込む努力をしている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの立ち上げ時から、地域密着型サービスとしての理念に基づいたキャッチフレーズ「たくさんの笑顔と安心できる暮らしをめざして」を公募するなど地域を巻き込む形で取り組んでいる。利用者の生活は管理的でなく、日々の暮らしの自然な流れを大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、各ユニットのリーダーを中心に共通認識が高まるよう職員の話し合いや研修を行っている。管理者も利用者に直接接する中で、笑いを引き出す努力もし、利用者の声から職員の話し合いに参加して方針や考え方を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の生活が、事業所から買い物、散歩と屋外での日課が定着しているため、暮らしの中の挨拶から交流が徐々に根付いている様子が見受けられる。「いつでもだれでもどうぞ」の精神で、開設時から内覧会やケーブルTVでの広報など、事業所の開放と隣保活動なども含めて地域に溶け込む努力をしている。		敷地の畑ですでに地域の方々の協力が得られるなど、付き合いは深まっている。今後は、地域高齢者の健康に対する催し、お茶会などの取り組みも予定している。交流が進むことによって事業所ならではの行事も企画し、地域の方々を招き入れる取り組みも引き続き大切にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎日5項目のチェックを行い、職員一丸となって自己評価に取り組まれたことから意識の高さが窺える。リーダー職の方々を含め、外部の評価結果に対する職員の意識が高く感じられ、今後の事業所運営に活用しようとする姿勢が窺えた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、日々の暮らしの出来事を取り上げて共有するとともに、地域や利用者の意見を聴き、理念に基づき丁寧に対応している。夜間や離設の問題も管理的になりがちであるが、本人や家族の思いを受け止めた個別の対応に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町との連携は、地域包括支援センターとの日々の連絡や会議だけでなく地域行事の情報も入手し、参加するように心がけている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報誌「ひろいしの里だより」と共に、個々の生活状況についても担当者が書面で毎月送付している。写真からは、暮らしぶりや活動が分かり、健康面、金銭面と明確な伝達項目と内容が充実していることもあり、家族の安心に結びついている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との日々のコミュニケーションを心がけているため、要望を把握した時点ですぐに職員間で話し合いが持たれ、反映できる連携と体制がある。そのため、大きな苦情もなく対応できている。</p>		<p>家族や知人も含め、価値観には違いがあるので、些細なことでも事業所や職員の対応に疑問や不安などをもたれた場合、どのような解決の機会や手段があるかを具体的に提示するなど、今後一層の取り組みが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は基本的になく、ユニットごとの固定であり、馴染みの職員のケアを受けている。看護師は両ユニットの健康管理を行い、日ごろよりユニット間の交流を活かして、応援の際でも個別対応が可能のように情報交換をし、安心できるサービスの提供に配慮している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は、日々のケアの実態に応じて具体的な課題について実施されているため、働きながらのトレーニングとなっている。しかし、介護職務の経験が浅い職員もいるため、具体的な援助技術のスキルアップを図るためには、段階的な教育やスキル把握など組織的に行う必要がある。</p>		<p>個々の職員が専門職として一定水準のサービスを提供し、さらにサービスの質が維持できる事業所となるよう、外部研修も視野に入れた計画的な人材育成を期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>島内のグループホームの連絡会を3ヵ月毎に開催し、情報交換をしている。開設前には、他事業所で研修も行っており、職員の交流も考えられている。</p>		<p>連絡会へ参加する職員が限られているため、より職員の質を上げていくためにも、多くの職員が参加できる体制がつけられることを期待したい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には、本人や家族を交えてグループホームの生活をしっかり把握していただいたり、疑問や不安を話していただくための時間をとって、納得して入居していただけるよう配慮している。入居後も馴染むまでは、無理がないよう寄り添い、生活パターンをしっかりと把握するよう家族にも協力していただきながらケアしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除、買い物、3食の食事づくりを中心とした暮らしが事業所の活動性を支えている。その活動は、相談しながら一緒に進められるので会話も多く、共同や相方向の関係が築かれている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「犬を飼いたい」、「外に出たい」など様々な要望があれば、それが叶えられるように職員間で話し合っている。要望を実現するために職員だけでなく、家族や近隣の方々にも協力していただく姿勢で検討している。その取り組みが、さらなる希望や活動に広がり、その人らしい暮らしの展開が行われている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時の介護計画をもとに、利用者の意向や日々の暮らしの情報を絶えず追加しながら、できるだけ具体的な介護計画を作成している。月1回のユニット会議で、より良く暮らしているかの視点でケアプランの内容と取り組みを確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日常的に職員間だけでなく利用者ともコミュニケーションがとれていることで、細かな情報が記録されている。その記録を基に、現状に即した計画が立案されている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>受診や入院の送迎など利用者の家族が希望される事に対し、できるだけ対応できるよう配慮している。また、家族や本人の希望により終末期の施設への往診を依頼し、早期退院の支援などの実績もある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。日頃より、看護師が中心となって医療機関との連携を密にとり、急変の場合にも対応できるよう複数の医療機関とも関係を築いている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期に対する対応方針を決め、書面で説明を行い同意も得ており、家族や本人の意向から統一されたケアを実施した実績がある。その際にも、関係者が具体的に話し合いを繰り返し、毎日の往診と家族の宿泊など事業所として可能な限りの対応が行われていた。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>誘導の際や会話の際の言葉の語調は柔らかく、利用者のプライバシーを損ねない言葉かけが徹底されている。個人記録などもロッカー管理され、個人情報の取り扱いに留意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れはあるが、時間を区切ってのスケジュールはなく、一人ひとりの「その日」のしたいことを把握する声かけから個々の役割や好きな時間の過ごし方を支援している。季節や天気をもて「散歩」など話し合っていて決めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	火災発生時の対応は、消防署の指導のもと全職員が講習を受けている。		近隣住民の方に事業所の状況を説明し、地域との連携による避難訓練の実施が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	日々の食事量・水分量はすべての利用者についてチェックしており、摂取量が不足している利用者には個別に対応している。栄養に関しては、3ヵ月ごとにバランスシートで確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共有の生活空間は明るく開放感があり、居心地よく過ごせるようソファの配置なども考えられている。オープンキッチンであり、絶えず人が集まる設計である。また掃き出し窓も大きく外の草木や景色が楽しめ、外に出ることもできる。和室の空間は戸を閉めると個室のスペースとなる。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用に際し、家族に利用者の馴染みのものの持ち込みを依頼しているため、利用者ごとに持ち込まれる家具も違い、個々の部屋の雰囲気も異なっている。		

 は、重点項目。